

入 学 試 験 問 題

地理歴史

前

(配点 120 点)

平成 23 年 2 月 26 日 9 時 30 分—12 時

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 40 ページあります(本文は日本史 4 問 4 ~15 ページ、世界史 3 問 16~23 ページ、地理 3 問 24~40 ページ)。
落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 日本史、世界史、地理のうちから、あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。
- 4 解答には、必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 5 解答は、1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。
- 6 解答用紙の指定欄に、受験番号(表面 2 箇所、裏面 1 箇所)、科類、氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 7 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 8 解答用紙表面上方の指定された()内に、その用紙で解答する科目名を記入しなさい。
- 9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち、その用紙で解答する科目の分を 1 箇所だけ正しく切り取りなさい。
- 10 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 11 この問題冊子の余白は、草稿用に使用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 12 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
- 13 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

日　　本　　史

第 1 問

663年に起きた白村江の戦いとその後の情勢に関する次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(イ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 664年、対馬島・壱岐島・筑紫国等に防人と烽を置き、筑紫に水城を築いた。
翌年、答体春初を派遣して長門国に城を築き、憶礼福留・四比福夫を筑紫国に派遣して大野城と基肄城とを築かせた。
- (2) 高句麗が滅んだ668年、新羅からの使者に託して、中臣鎌足は新羅の高官金庾信に船1隻を贈り、天智天皇も新羅王に船1隻を贈った。唐に向けては、翌年高句麗制圧を祝う遣唐使を送ったが、その後30年ほど遣使は途絶えた。
- (3) 671年、倭の朝廷は、百濟貴族の余自信・沙宅紹明・憶礼福留・答体春初ら50余人に倭の冠位を与えて、登用した。
- (4) 百濟救援の戦いに動員された筑紫国の兵士大伴部博麻は、ともに唐軍に捕られた豪族の筑紫君ら4人を帰国させるために自らの身を売った。博麻が新羅使に送られて帰国できたのは、690年のことであった。
- (5) 『日本靈異記』によれば、備後国三谷郡司の先祖は、百濟救援の戦いに赴いて無事に帰国したのち、連れ帰った百濟人僧侶の力を借りて、出征前の誓いどおり、郷里に立派な寺院を建立したという。この寺院は、発掘調査された寺町廃寺である。伊予国の郡司の先祖についても、同様の話が伝わる。

設問

A 白村江の戦いに倭から派遣された軍勢の構成について、1行以内で述べなさい。

B 白村江での敗戦は、日本古代の律令国家の形成にどのような影響をもたらしたのか、その後の東アジアの国際情勢にもふれながら、5行以内で述べなさい。

第 2 問

次の表は、室町幕府が最も安定していた4代将軍足利義持の時期(1422年)における、鎌倉府の管轄および九州をのぞいた諸国の守護について、氏ごとにまとめたものである。この表を参考に、下の(1)・(2)の文章を読んで、下記の設問A～Cに答えなさい。解答は、解答用紙(口)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

氏	国
赤松	播磨、美作、備前
一色	三河、若狭、丹後
今川	駿河
上杉	越後
大内	周防、長門
京極	山城、飛驒、出雲、隠岐
河野	伊予
斯波	尾張、遠江、越前
富樫	加賀
土岐	伊勢、美濃
畠山	河内、能登、越中、紀伊
細川	和泉、摂津、丹波、備中、淡路、阿波、讃岐、土佐
山名	但馬、因幡、伯耆、石見、備後、安芸
六角	近江

- (1) 南北朝の動乱がおさまったのち、応仁の乱まで、この表の諸国の守護は、原則として在京を義務づけられ、その一部は、幕府の運営や重要な政務の決定に参画した。一方、今川・上杉・大内の各氏は、在京を免除されることも多かった。
- (2) かつて幕府に反抗したことのある大内氏は、この表の時期、弱体化していた九州探題渋川氏にかわって、九州の安定に貢献することを幕府から期待される存在になっていた。

設問

- A 幕府の運営や重要な政務の決定に参画した守護には、どのような共通点がみられるか。中央における職制上の地位にもふれながら、2行以内で述べなさい。
- B 今川・上杉・大内の各氏が、在京を免除されることが多かったのはなぜか。2行以内で説明しなさい。
- C 義持の時期における安定は、足利義満の守護に対する施策によって準備された面がある。その施策の内容を、1行以内で述べなさい。

第 3 問

17世紀前半、江戸幕府は各藩に、江戸城や大坂城等の普請を命じた。そのことに関する次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(ハ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 城普請においては、それぞれの藩に、石垣や堀の普請が割り当てられた。その担当する面積は、各藩の領知高をもとにして決められた。
- (2) 相次ぐ城普請は重い負担となったが、大名は、城普請役をつとめることが藩の存続にとって不可欠であることを強調して家臣を普請に動員し、その知行高に応じて普請の費用を徴収した。
- (3) 城普請の中心は石垣普請であった。巨大な石が遠隔地で切り出され、陸上と水上を運搬され、綿密な計算に基づいて積み上げられた。これには、石積みの専門家穴太衆^{あのう}に加え、多様な技術を持つ人々が動員された。
- (4) 城普請に参加したある藩の家臣が、山から切り出した巨石を、川の水流をたくみに調節しながら浜辺まで運んだ。これを見て、他藩の者たちも、皆この技術を取り入れた。この家臣は、藩内各所の治水等にも成果をあげていた。

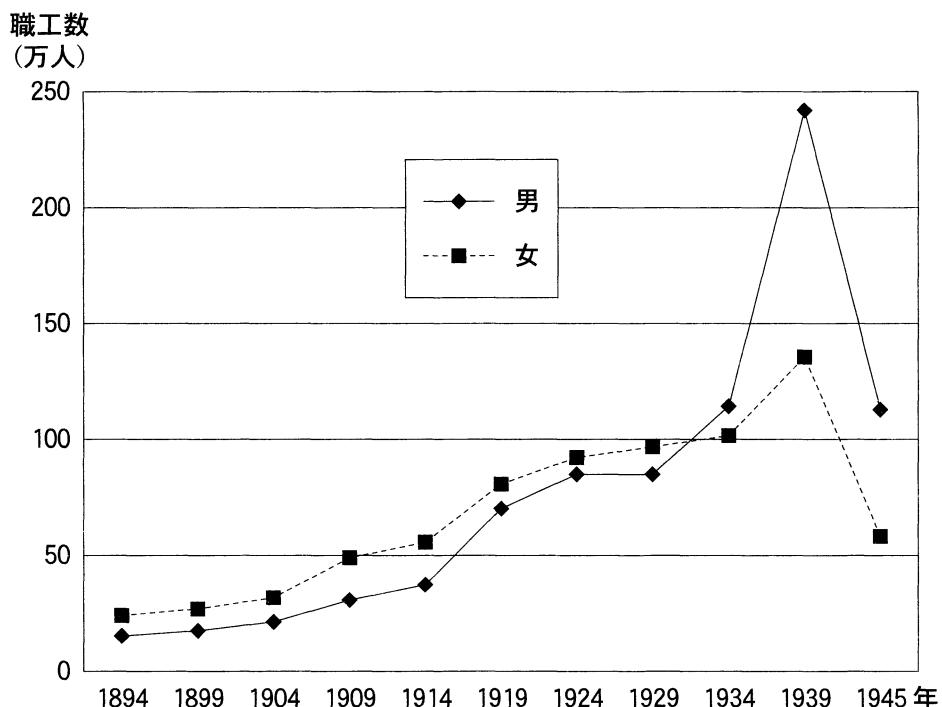
設 問

A 幕府が藩に課した城普請役は、将軍と大名の関係、および大名と家臣の関係に結果としてどのような影響を与えたか。負担の基準にもふれながら、3行以内で述べなさい。

B 城普請は、17世紀の全国的な経済発展に、どのような効果をもたらしたか。2行以内で述べなさい。

第4問

次のグラフは、1945年以前に日本(植民地を除く)の工場で働いていた職工について、男女別の人数の変化を示したものである。このグラフを見ながら、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(二)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。



設問

A 1920年代まで女性の数が男性を上回っているが、これはどのような事情によると考えられるか。当時の産業構造に留意して、3行以内で説明しなさい。

B 男性の数は1910年代と30年代に急激に増加している。それぞれの増加の背景を、あわせて3行以内で説明しなさい。

世 界 史

第 1 問

歴史上、異なる文化間の接触や交流は、ときに軋轢を伴うこともあったが、文化や生活様式の多様化や変容に大きく貢献してきた。たとえば、7世紀以降にアラブ・イスラーム文化圏が拡大するなかでも、新たな支配領域や周辺の他地域から異なる文化が受け入れられ、発展していった。そして、そこで育まれたものは、さらに他地域へ影響を及ぼしていった。

13世紀までにアラブ・イスラーム文化圏をめぐって生じたそれらの動きを、解答欄(イ)に17行以内で論じなさい。その際に、次の8つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付しなさい。

インド アッバース朝 イブン＝シーナー アリストテレス
医学 代数学 トレド シチリア島

第 2 問

歴史上、帝国と呼ばれた国家は、多民族、多人種、多宗教を包摂する大きな領域をその版図におさめている場合が多かった。それらの国家の繁栄と衰退、差異や共通性、内外の諸関係について、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) ローマはテヴェレ川のほとりに建設された都市国家にすぎなかつたが、紀元前6世紀に、エトルリア人の王を追放して共和政となつた。その後、周辺の都市国家を征服してイタリア半島全体を支配し、やがて地中海世界を手中におさめる大帝国となつた。ローマが帝政に移行する紀元前後からおよそ200年にわたる時期はパクス・ローマーナとたたえられ、平和が維持された。以下の(a)・(b)の問い合わせに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) ローマの平和と繁栄を示す都市生活を支えていた公共施設について、2行以内で説明しなさい。

(b) ローマの市民権の拡大について、2行以内で説明しなさい。

問(2) 中国の歴代王朝は、周辺諸国との間で儀礼に基づく冊封や朝貢といった関係をもつた。しかし、その制度や実態は、王朝ごとに、また相手に応じて、多様であった。とりわけ対外貿易と朝貢との関係には、顕著な変化が見られる。明から清の前期(17世紀末まで)にかけて、対外貿易と朝貢との関係がどのように変化したかについて、海禁政策に着目しながら、4行以内で説明しなさい。

問(3) 1898 年に勃発したアメリカ-スペイン戦争をきっかけとして、アメリカ合衆国は、モンロー宣言によって定式化された従来の対外政策を脱し、より積極的な対外政策を追求し始めた。とりわけこの戦争の舞台となったカリブ海や西太平洋、そして中国においては、戦後、アメリカ合衆国の影響力が飛躍的に高まり、帝国主義列強間の力関係にも大きな変化がもたらされた。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

- (a) この宣言の内容を、2行以内で説明しなさい。
- (b) この戦争後におけるアメリカ合衆国の対中国政策の特徴を、3行以内で説明しなさい。

第 3 問

火を自由にあつかえるようになると、人類は調理を知り、さまざまな食糧を手に入れることになった。食生活が安定するとともに、人類の生活圏は拡大していく。これに関連して、以下の設問(1)～(10)に答えなさい。解答は、解答欄(ハ)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(10)の番号を付して記しなさい。

問(1) 麦作は乾燥した西アジアで始まった。この麦を水に浸して発芽させたものからビールができることは、すでにシュメール人もエジプト人も知っていたという。大河のほとりにあるために灌漑施設をめぐらし、豊かな穀物生産にもとづく文明は、文字を発明したことでも名高い。それぞれの文字名を記しなさい。

問(2) 漢の武帝は内政の充実とともに、西域などへの対外遠征にも積極的であった。そのために軍事費がかさみ、それをまかなうために鉄などを専売品とした。このとき専売品とされた飲食物が2つあるが、それぞれの名称を記しなさい。

問(3) ワイン生産のもととなる葡萄の栽培は、ローマ帝国の拡大とともに北上したという。その北限をなすライン・ドナウ両河の北側一帯には古くからゲルマン系の諸族が住んでいた。それらのなかで帝国内を蹂躪し、やがて5世紀になると北アフリカに王国を建てた部族がいる。この部族名を記しなさい。

問(4) 11世紀後半から、西ヨーロッパでは森林や荒野の開墾が進み、農法も改良されて、収穫は播種量の3倍から6倍ほどに上昇した。生産高に余剰が生まれ、それらが取引される交易拠点には都市が目立ってくる。やがて、これらの都市は領主に対して自治を主張するようになった。このことを讃える名高い格言があるが、それを記しなさい。

問(5) マレー半島に興ったマラッカ王国は、15世紀には東西貿易の中継地として栄えた。ジャワ商人などによってマラッカに運ばれたジャワやモルッカ諸島の産物の中で、当時の需要の増大によってヨーロッパ向けにも輸出された国際商品は何か。その名称を記しなさい。

問(6) 15世紀末以前のアメリカ大陸では麦や米の栽培は知られていなかったが、独自の農耕技術にもとづいて、ほかの作物が栽培されていた。それらは、以後、世界中に広まり、人口の増大にも寄与している。これらの作物名を2つ記しなさい。

問(7) 16世紀初頭にマラッカを占領した国は、ラテンアメリカに大きな領土を有し、そこで黒人奴隸を導入して大規模なサトウキビのプランテーション栽培をしたことでも知られている。この国名およびそのラテンアメリカの領土名を記しなさい。

問(8) ビルマは19世紀後半以降のエーヤーワディー川のデルタ地帯の開発で、世界有数の米の輸出地となった。ビルマの最後の王朝となったコンバウン朝についての次の①～④の文章のうち、誤りを含むものの番号を1つ記しなさい。

- ① 18世紀に成立した。
- ② シャムに攻め込んでアユタヤ朝を滅ぼした。
- ③ イギリスとの間で三次にわたる戦争を戦った。
- ④ イギリスの植民地支配下で1947年まで存続した。

問(9) 酒を楽しむ歴史は長いが、飲酒を禁止したり制限したりする試みも、古くから繰り返されてきた。ドイツでは、1933年に政権を握ったナチスのもとで断種法が制定され、慢性アルコール依存症患者も、強制的な不妊手術の対象に入れられた。こうした優生学的発想は、この政党の政権が第二次世界大戦の時期にかけて展開した、ユダヤ人などの大量殺戮にもつながった。この大量殺戮は何と呼ばれているかを記しなさい。

問(10) ベトナムは、第二次世界大戦以前には、世界有数の米輸出地だったが、大戦後は戦乱のため米作が停滞し、一時は食糧輸入国になった。ベトナムが米輸出国の地位を回復するのは1989年からであり、これは1986年にはじまる改革の成果とみなされている。このベトナムの改革は何と呼ばれているかを記しなさい。

地 理

第 1 問

自然と人間に関する以下の設問A～Bに答えなさい。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問A

世界の自然災害に関する次の小間に答えなさい。図1(26～27ページ)のa～fは、1970年代以降に、それぞれの国において6種類の自然災害(火山災害、干ばつ、水害、地震災害、風害、斜面災害)が何回発生したかを集計し、その数を「多い」、「中程度」、「少ない」の3段階で表した地図である。たとえば風害の場合、発生回数31回以上が「多い」、11～30回が「中程度」、10回以下が「少ない」となっている。図の作成に用いられた自然災害は、死者が10人以上、被災者が100人以上、政府が非常事態を宣言、政府が国際支援を公式に要請、という4つの基準のうち、少なくとも1つを満たすものである。なお、斜面災害とは山崩れ、地すべり、雪崩を指す。

- (1) 図1のうち、aは斜面災害、bは水害を示している。また、c～fは、火山災害、干ばつ、地震災害、風害のいずれかである。c～fがこれらのどれにあたるかを、c—○のように答えなさい。

- (2) 図1のaとbを比較すると、日本では斜面災害が多いが水害の頻度は中程度であり、アメリカ合衆国では水害が多いが斜面災害は少ない。このような両国の相違が生じた原因のうち、地形および人口の分布の違いについて、2行以内で述べなさい。

(3) 図2(28ページ)のPとQは、世界で生じた自然災害による死者数と被災者数を、1900年～2008年の期間について示している。棒グラフは各年の値を示し、折れ線グラフは各年の値をもとにした長期的な傾向を示している。20世紀の中頃から、自然災害による死者が減少傾向にあり、被災者数が増加傾向にある理由を、3行以内で述べなさい。

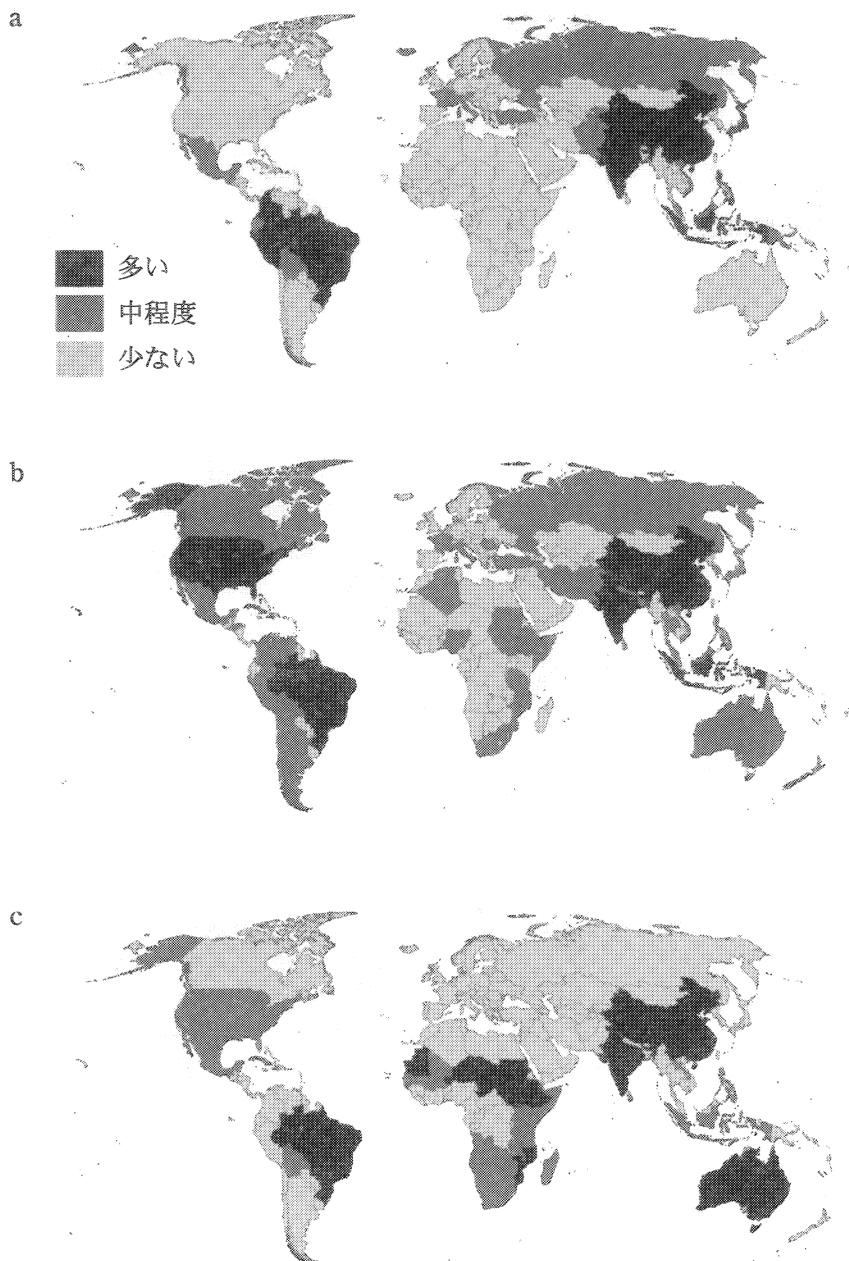
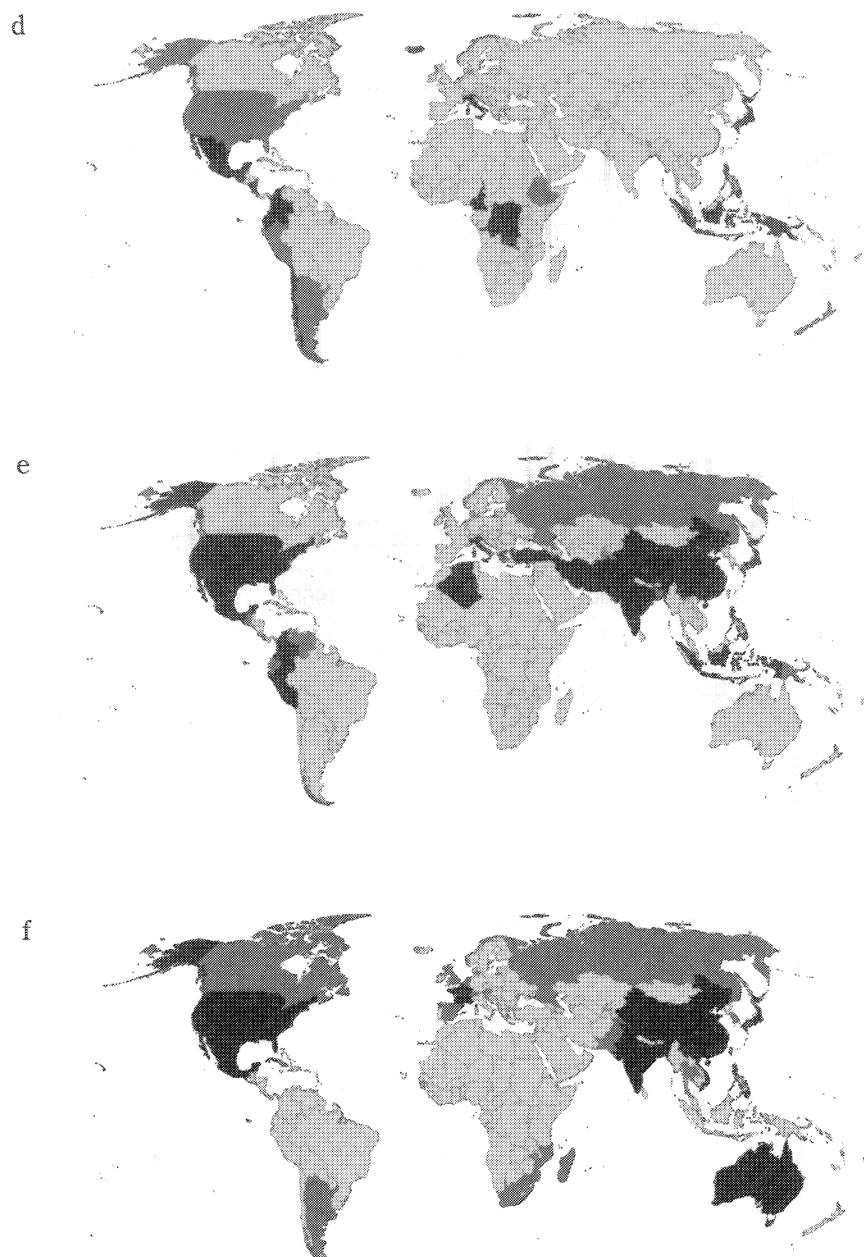


図1 出典：EM-DAT, Centre for Research on the Epidemiology of Disasters (CRED)



(図1 続き)

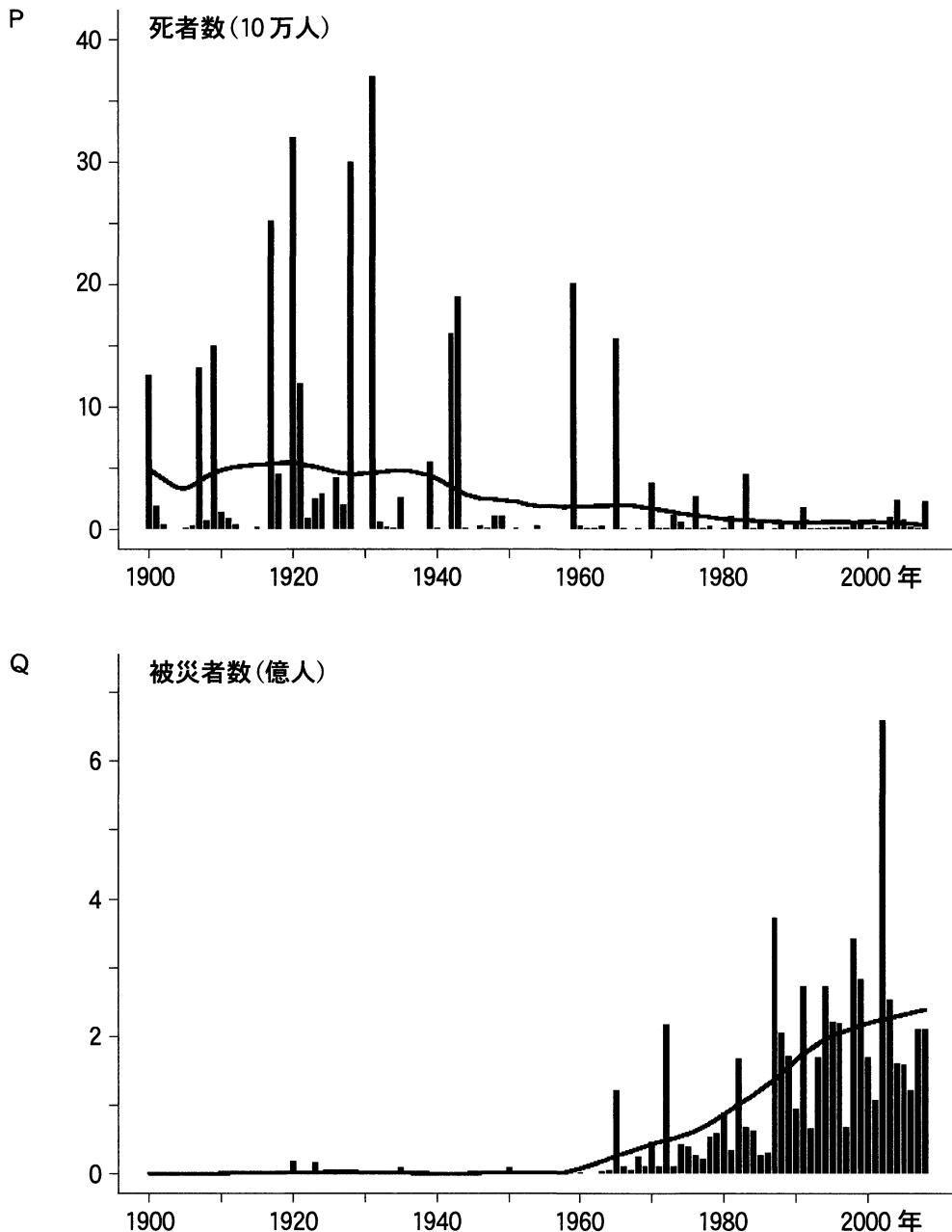


図 2 出典は図 1 と同じ。

設問 B

30 ページの図 3 と 31 ページの図 4 は、大正 13 年と平成 5 年に発行された同じ場所の地形図である。これらの図をみて、以下の小間に答えなさい。

- (1) 図 3, 4 の X, Y, Z の各集落が立地している場所に共通の地形名称を答え、続けて、そこに立地した理由を 2 行以内で述べなさい。
- (2) 図 3, 4 の集落 K と L に共通した立地条件の特徴について、下記の語句を全部用いて 2 行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

洪水 扇状地 地下水

- (3) 河川 A の北と南とでは土地利用の変化に大きな違いが認められる。その違いと、そうした違いが生じた理由について、合わせて 4 行以内で述べなさい。



図 3

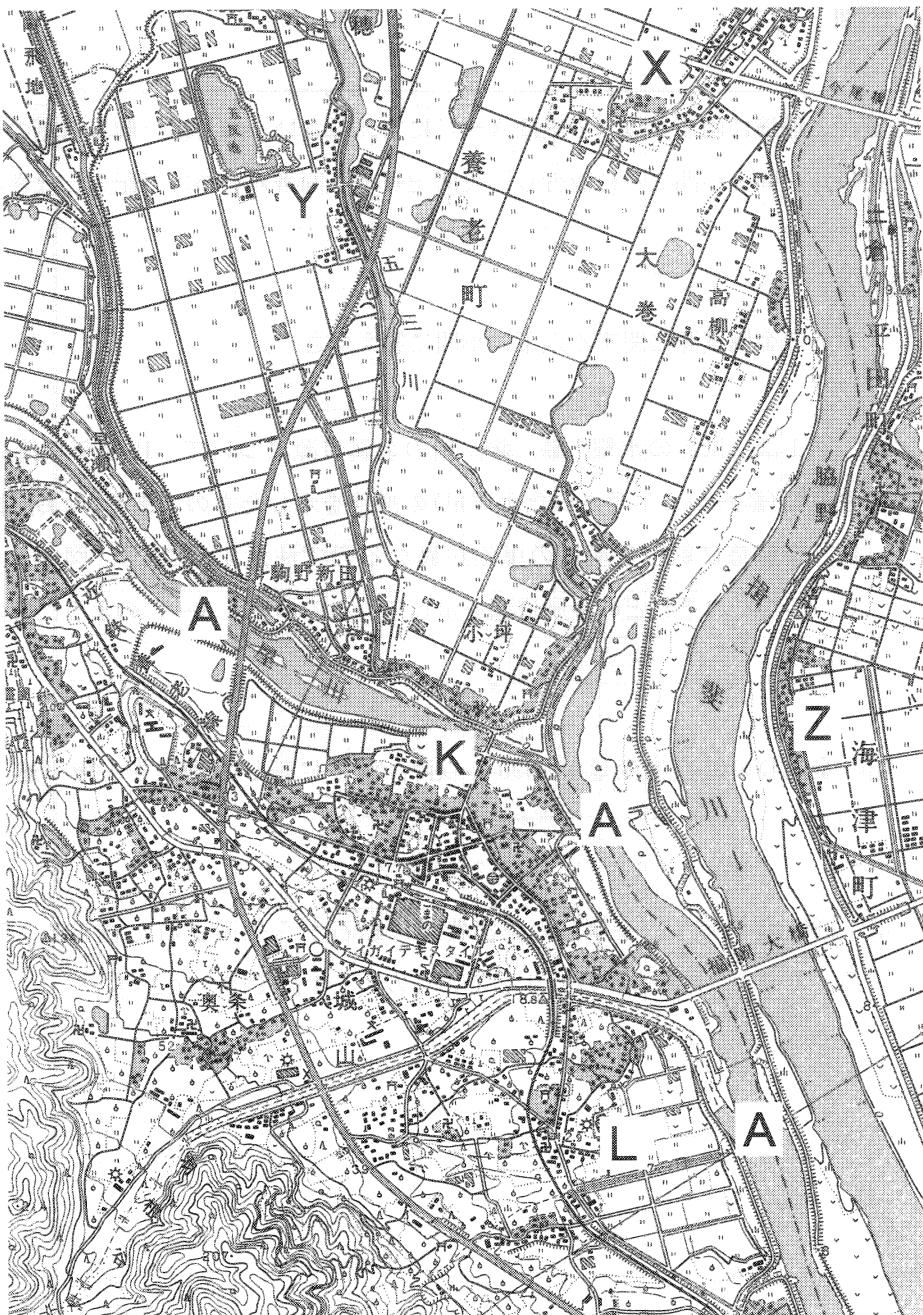


図 4

第 2 問

資源と環境に関する以下の設問A～Cに答えなさい。解答は、解答用紙の(口)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問A

世界の金属資源に関する以下の小間に答えなさい。

- (1) 図1は、世界の水銀、鉄、銅、鉛の金属資源について、1980年以降の鉱石生産量(鉱石から生産された金属量)の推移を示したものである(なお、図1では、金属毎に鉱石生産量の単位が異なるので注意すること)。図中A、B、C、Dがそれぞれどの金属資源を示しているのかを、A—○のように答えなさい。
- (2) 金属Dの鉱石生産量が1990年以降、減少に転じた理由を1行で述べなさい。
- (3) 2007年時点で、金属Cの全消費量は鉱石から生産された量の2.2倍になる。このような現象がなぜ生じているのかを1行で述べなさい。

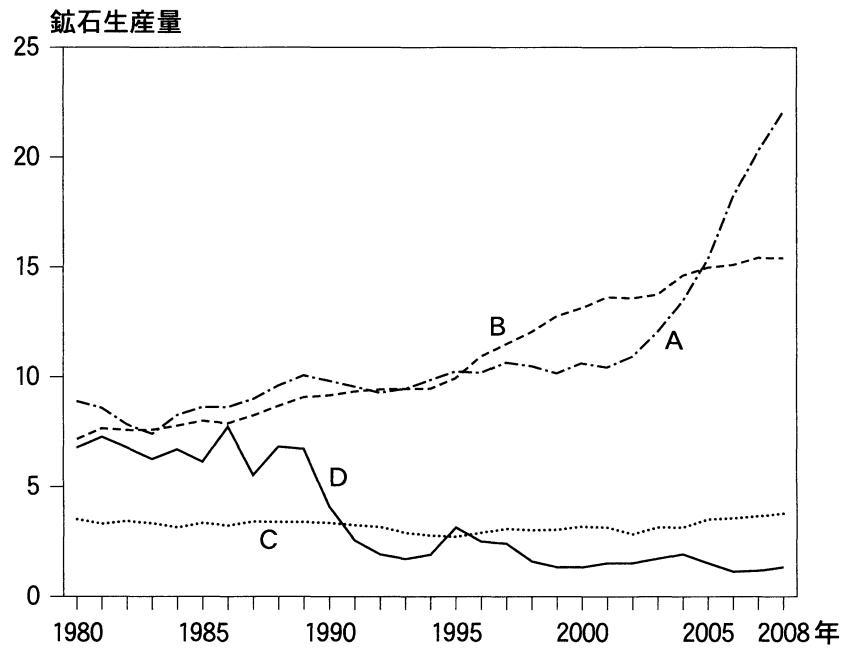


図 1

A～D の単位はそれぞれ以下の通りである。A：億トン，B：百万トン，C：百万トン，D：千トン。
アメリカ合衆国地質調査所資料による。

設問B

図2は主要なレアメタルの生産量(2007年)上位3ヶ国とそのシェアを示したものである。

(1) 図2より読み取ることができる、レアメタルの資源供給上の特徴および問題点を2行以内で述べなさい。

(2) レアメタル資源に関して、日本やヨーロッパ諸国などが実施している主な資源政策を2つ、合わせて2行以内で述べなさい。

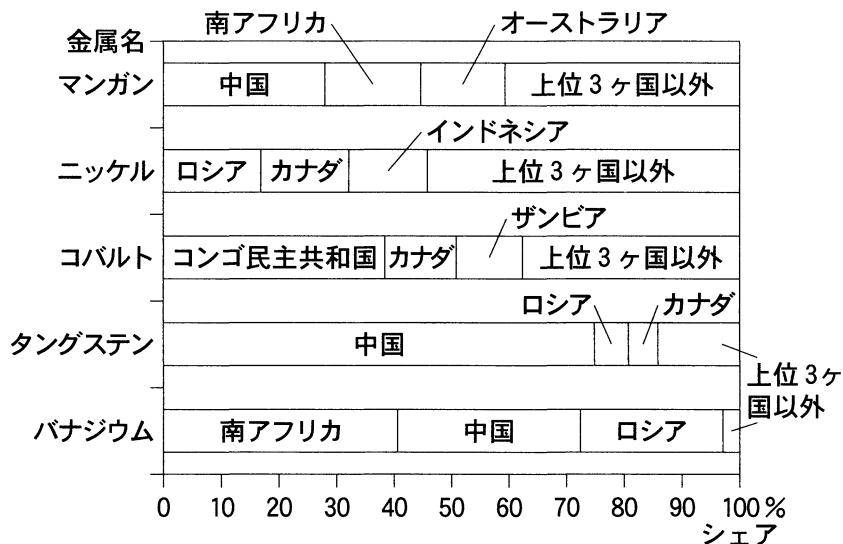


図2

アメリカ合衆国内務省・地質調査所『Minerals Yearbook』による。

設問C

図3はある非金属資源の世界供給量の推移を内訳別に示している。この資源は、かつては日本の鉱山からも採掘されていたが、近年は採掘されないようになった。

(1) この資源名を答えなさい。

(2) この資源で石油や天然ガスからの回収が増加している理由とその背景を、下記の語句を全部用いて3行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いててもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

大気 雨 精製

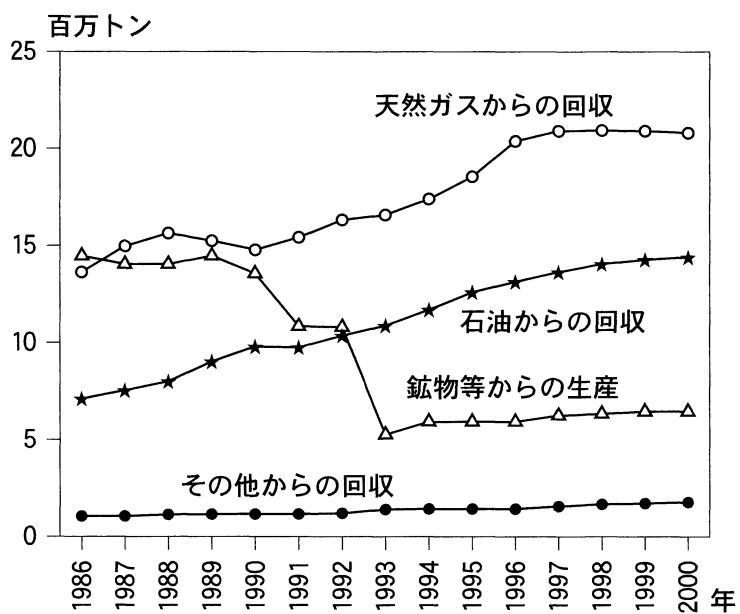


図3

NIRE 資料による。

第 3 問

日本の人口と人口移動に関する以下の設問A～Bに答えなさい。解答は、解答用紙の(ハ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問A

- (1) 図1は、日本で1年間に生まれてくる子供の数(出生数)と亡くなる人の数(死亡数)および65歳以上人口の推移を示している。出生数は、1955年から1970年まで100万人台であったが、1971年から1974年の間は200万人を超える、1975年には再び100万人台となった。なお、1966年に出生数が一時的に落ち込むのは「ひのえうま」の影響である。1970年代前半に、このような出生数のピークが見られた理由を、以下の語句を全部用いて2行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

出生率 世代 戦争

- (2) 図1で、65歳以上人口は1955年以来、速いペースで増加し続けているのに対し、死亡数は1980年代に入るまでほぼ一定で推移しており、増加傾向を見せるのは1980年代半ば頃からである。1980年代半ば頃まで死亡数の増加が見られなかった理由として考えられることを1行で述べなさい。

- (3) 表1は、日本の都道府県について、自然増加率(人口1,000人あたりの出生数と死亡数の差)の上位10位を示している。これらのうち、沖縄県を除いた9都府県について、自然増加率が上位にある共通の理由として考えられることを2行以内で述べなさい。

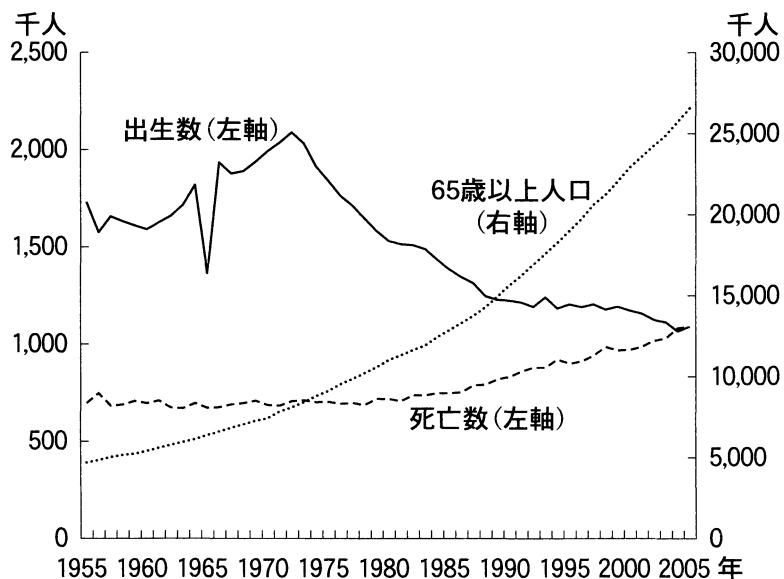


図 1

出生数と死亡数は「人口動態統計」による。

65歳以上人口は総務省資料に基づいて推計。

表 1
(2006 年)

順位	都府県	自然増加率
1	沖縄	5.4
2	愛知	2.5
3	神奈川	2.3
4	滋賀	2.2
5	埼玉	1.8
6	千葉	1.2
7	大阪	1.0
8	東京	0.7
9	兵庫	0.4
10	福岡	0.4

自然増加率は、人口 1,000 人あたりの出生数と死亡数の差。

「人口動態統計」による。

設問B

国勢調査では10年に1度、調査時点の常住地と5年前の常住地とを比べることによって、都道府県間の人口移動を調べている。39~40ページの図表は、都道府県間の人口移動を転入後の産業別・年齢階層別にみるとともに、主な都道府県における人口移動の特徴を示したものである。

- (1) 表2は、2000年を調査時点として、主な産業について都道府県間移動者の割合と年齢階層別構成比をみたものである。表中の産業a～dに該当する産業は、農業、製造業、金融・保険業、サービス業のいずれかである。該当する産業名を、それぞれa～○のように答えなさい。
- (2) 図2は、2000年を調査時点として、各都道府県の常住者のうち、他都道府県から転入してきた人の割合を示したものである。地方圏のなかで、宮城県、香川県、福岡県で割合が高くなっているが、これらの県に共通する理由を1行で述べなさい。
- (3) 表3は、1990年と2000年の2時点について、6つの都道府県をA群とB群とに分け、他都道府県からの転入者数と産業別人口移動の変化をみたものである。ただし、表3には、産業別人口移動の変化の特徴的な産業のみを示している。A群とB群との差異と、そうした差異が生じた理由を、以下の語句を全部用いて、3行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

空洞化 自然環境 年齢

表 2

産業	各産業就業者を100とした場合の都道府県間移動者の割合(%)	都道府県間移動者の年齢階層別構成比(%)						
		15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳以上	合計
(a)	13.5	9.2	42.6	29.1	15.5	3.5	0.2	100
公務	11.2	20.7	40.6	21.9	13.3	3.3	0.3	100
(b)	8.6	24.2	44.1	17.3	8.7	4.6	1.0	100
卸売・小売業	7.9	29.8	36.5	18.1	11.2	3.8	0.5	100
(c)	6.6	16.9	43.6	20.8	12.8	5.3	0.6	100
建設業	5.6	14.4	41.5	18.8	16.6	7.7	1.1	100
(d)	0.8	19.3	36.6	16.6	13.0	10.7	3.8	100

注：卸売・小売業には飲食店も含む。

国勢調査による。

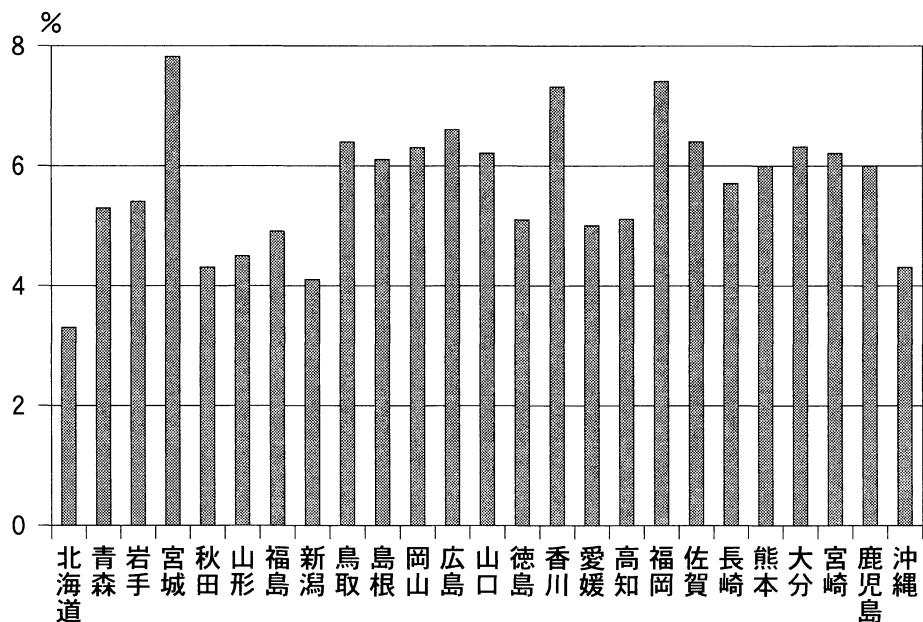


図 2

注：首都圏、中部圏、近畿圏の都道府県を除く地方圏を示した。

国勢調査による。

表 3

都道府県	他都道府県からの転入者数			変化の特徴的な産業および1985年～1990年と1995年～2000年の2期間における転入者数の増減率						
	1985年～ 1990年 (千人)	1995年～ 2000年 (千人)	2期間の 増減率 (%)	産業	増減 率 (%)	産業	増減 率 (%)	産業	増減 率 (%)	
東京	1,162	1,155	▲1	金融・保険業	▲16	サービス業	13	卸売・小売業	▲2	
A群	愛知	370	353	▲5	製造業	▲33	サービス業	11	卸売・小売業	6
	大阪	501	480	▲4	金融・保険業	▲18	サービス業	6	卸売・小売業	▲5
B群	北海道	140	158	13	農業	90	サービス業	31	卸売・小売業	19
	長野	90	108	21	農業	58	卸売・小売業	28	サービス業	23
	沖縄	40	45	14	農業	31	サービス業	21	卸売・小売業	10

注：▲は減少を意味する。

国勢調査による。